

モーリタニア月例報告  
(2024年4月)

2024年5月  
在モーリタニア日本国大使館

主な出来事

【内政】

- 4月 7日 モーリタニア内政 (マリ軍及びワグネルのモーリタニア領内侵入)
- 4月20日 モーリタニア内政 (大統領選挙日程の発表)
- 4月24日 モーリタニア内政 (ガズワニ大統領の次期大統領選挙出馬表明)

【外政】

- 4月15日-20日 モーリタニア外政 (サーレハ経済相のIMF・世銀春季会合等への出席)
- 4月17日 日・モーリタニア外相会談
- 4月18日 モーリタニア外政 (ファイ・セネガル新大統領による当地訪問に先立つ解説記事)
- 4月18日 モーリタニア外政 (ファイ・セネガル大統領の当地訪問)
- 4月19日 モーリタニア外政 (モーリタニア市民がマリ領内で受けている暴挙に関するマリへの抗議)

## 【内政】

### ●モーリタニア内政（マリ軍及びワグネルのモーリタニア領内侵入）

（4月8日付、Radio France International（RFI））

1. 4月7日、マリ軍兵士及びワグネル所属ロシア人兵士がモーリタニア領内に侵入した。この侵入は対テロ作戦の一環として行われたもので、マリもモーリタニアも公式には発表していないが、RFIによれば、この侵入で3名の市民が銃弾で負傷したという。当該事件はモーリタニア南東部、ホード・エッシェルギ州ファサーラ近郊のマダラ村で起こった。

2. 彼らは、アルカイダとつながりのあるJNIMマキナ大隊に属するジハード主義者を追跡していた。地元の情報筋によれば、マリ軍兵士及びワグネル所属ロシア人兵士は同日午前10時前に国境を越えてモーリタニア領内に侵入し、マダラ村で発砲した。

3. バイクに乗った3人の若い市民が負傷、家屋が銃弾で損壊した。マリ軍兵士及びワグネル所属ロシア人兵士は4名の男性を拘束し、尋問の後に釈放した。

4. モーリタニア軍はその後、マダラ村に赴き、住民を安心させようと努め、この危険の高い国境地帯に赴かないよう忠告した。

5. マリの治安当局は「彼らはテロリストを追跡していたのであり、落ち度はない。」と述べ、作戦中に何人かのジハード主義者を無力化したと断言した。マリ領内でJNIMの隠れ家となっている広大なワガドゥ(Wagadou)の森（モーリタニア・バシクヌ県から65キロ）は今回被害のあったマダラ村の近くに位置している。

6. モーリタニア国境では、マリ軍及びワグネルが関わる事件が定期的に起きている。2年前、モーリタニアの民間人数名が死亡した後、合同調査委員会が設置された。RFIの取材に対し、在バマコ・モーリタニア大使館はコメントせず、ヌアクショットも公式声明を出していない。マリ軍からの回答はない。

7. またマリ軍は、7日朝、トンブクトゥ地方のベル(Ber)から北に100キロほど離れたゾルホ(Zorho)近郊で起きた無人爆撃機による空爆についてもコメントを避けた。地元の治安当局や民間人の複数の情報筋によれば、この空爆で女性とその子供2人が死亡したという。軍はこの無人機攻撃について公式

な声明を出していない。

●モーリタニア内政（大統領選挙日程の発表）

（4月20日付、当地政府系メディア「AMI」）

1. 第一回投票日を2024年6月29日（土）とし、第二回投票を実施する場合には、2024年7月13日（土）とする。
2. 選挙キャンペーンの開始は2024年6月14日（金）0時、終了は2024年6月27日（木）24時。
3. 投票は朝の7時に開始され、夜の7時に終了する。

●モーリタニア内政（ガズワニ大統領の次期大統領選挙出馬表明）

1. ガズワニ大統領2期目の立候補を表明する書簡

（4月24日）

（1）困難な状況が世界を取り巻く中で、我々はこの任期の間に、国の現在と未来に役立つ重要な成果を達成することができた。

（2）第一の目標は、常に国民の団結を固め、社会の調和を支援し、国民間の融和を図ることであり、今後もその目標に変更はない。

（3）政治的な平穏について、様々なパートナーの努力のおかげで、対話と理解を通じて国政の舞台における様々な主体間の断絶、敵対を克服することができた。

（4）開発戦略とは、経済的に弱い立場にある人々が、大規模な構造改革の成果を上げるまで間、日常生活の困難に直面する中で、強靱性を強化するものでなければ意味がないとの確信の下、脆弱層の社会的・経済的統合、生活の質の改善、基本サービスへのアクセス強化を行ってきた。

（5）基礎教育を統一的な公教育とし、全ての子供が同じ条件のもとで学べるようにすることで、共和制学校の基礎を築く。

（6）若者の願望と希望に応え、若者のエネルギーを解き放ち、彼らが望むモーリタニアの形成と建設に効果的に貢献する能力を与えることが、自分の最初の課題であったし今もそうである。

（7）モーリタニア国民に提示する選挙プログラムの中心的な目標は、若者の促進と失業との闘いである。次の任期は若者による若者のためのものである。

（8）いかなる犠牲を払っても、安定を強化し、安全を確保することを最優先とし続ける。

（9）経済成長、物価、貿易に大きな影響を与えた世界的な危機にも関わら

ず、我々はインフレを抑制し、過去5年間に実施された野心的な社会プログラムの資金調達を可能にする予算的余裕が生まれた。また、著しい対外債務の削減にも成功した。

(10) 食料自給率については、過去2年で、米の自給達成と野菜の大幅増産に成功した。

(11) また、経済発展の中心である鉱物部門の重要性について、2029年までに生産量を倍増させることを目標に、産業・鉱業公社(SNIM)開発計画の実施を加速させる。また、複雑な技術、多額の資本を必要としない主要輸入品に代わる国内産業の確立に重点を置く。

(12) 新たな政策と詳細な実行プログラムの実施を通じて、漁業、畜産開発、エネルギー分野を大きく飛躍させる。また、経済ビジョンの実現には民間部門の役割が不可欠であり、民間セクターがその役割を最大限に発揮できるよう支援し、寄り添っていく。

(13) 汚職や賄賂、公金横領など、あらゆる行動や慣行に厳しく向き合い行動する。この目的を達成するために、次の任期の初めに、全ての行政、監督、司法の機関を動員するために必要な全ての措置を講じる。

(14) 最後に、国民の信頼に感謝し、その志を高く評価し、共に歩んでくれたことを誇りに思う。国民に対し、有望な未来のために提案する野心的なプロジェクトと、安全な選択肢の下に、再度結集することを懇願。

## 2. 4月24日付、当地独立系メディア「アル・アフバール」解説

(1) モーリタニア国民に提示する2期目の計画の中心として「若者の促進と失業との闘い」を目標として掲げると決定した。次の任期は若者による若者のための任期になるだろう。

(2) ガズワニ大統領は、モーリタニア国民に宛てた2期目の立候補を表明する書簡の中で、モーリタニアの女性が全ての行政・経済・政治機関において必要不可欠な役割を果たすために正当な地位を確保することの重要性は、若者への関心と同等であると付け加え、モーリタニアの女性を「我々の王冠」と表現し、モーリタニアの女性が全ての行政・経済・政治機関においてその役割を果たすために長年に亘り熱意を注いできたことを強調した。

(3) また若者の様々な要求、優先事項を達成するために、この数年間の取り組みに言及しつつ、「教育のない若者は必要とされない若者であり、若者の損失は国家の損失である」として、全ての若者に対して社会で支障なく活躍し国家建設に効果的に参画する能力を与える質の高い教育を平等に受ける機会を提供するために、国家教育制度の改革に取り組んできたことを述べた。

(4) これには、11,000人の学生を収容できる新しい大学キャンパスの

建設と設備、いくつかの科学技術機関の建設と設備が含まれる、と述べ、いくつかの訓練、リハビリテーション、雇用プログラムも開始され、国民議会における若者の代表を確保するための若者（被選挙者）リストの作成を通じて、意思決定における若者の存在感を高める努力もなされている。

（５）これまでの成果とは対照的に、ガズワニ大統領は、若者の不満と期待を理解しており、自分たちの未来と国の未来を築くことを熱望している若者にとって、失業が大きな負担となっていることをよく理解していると述べた。若者が社会変革の力として、また公共政策の立案と実施において重要な役割を果たすことができるようにするために、失業をなくすことの重要性を強調した。

（６）ガズワニ大統領は、自身が教育を重要視しており、それが本質的には若者への関心であり、社会の発展と前向きな変化における若者の極めて重要かつ不可欠な役割であると強調し、若者を最初的手段とし最終的な目標とせず、真の社会的、経済的、政治的変革をもたらそうとするいかなる発展的ビジョンも、間違いなく挫折と失敗に終わると確信していると付け加えた。

（７）その上で、第一の課題は、昔も今も、若者の願望と希望を実現し、彼らのエネルギーを解放し、彼らが求めるモーリタニアの特徴を描き、構築するために効果的に貢献する資格を与えることである、と述べた。

（８）次期大統領選挙を「憲法に定められた重要な投票であり、民主主義体制を強化する道における重要な節目であり、過去５年間の成果を発表、評価するだけでなく、我が国をさらなる進歩と発展へと押し進めるために、計画を見直し、更新し、プログラムを準備する貴重な機会である」と述べた。

（９）ガズワニ大統領は、新たな任期に向けて市民の信を問う決断を伝えるために、直接市民に語りかけることを選んだと述べ、「義務の要請に応え、達成された重要な成果を強化し、新たな現場を開き、構造改革と私たちの切望に応じたプロジェクトを立ち上げることによって、国民と我々の愛する国に奉仕し続け、より速く、より深く、より包摂的で持続可能な国家開発努力のダイナミズムを支援するためである。」と述べた。

（１０）書簡の中で、ガズワニ大統領は、第一期政権における主な成果と、第二期政権におけるプログラムの特徴について述べた。

## 【外政】

### ●モーリタニア外政（サーレハ経済相のIMF・世銀春季会合等への出席）

（４月１４日から２０日付、当地政府系メディアAMI）

#### 1. 全体概要

（１）モーリタニア代表団は、４月１５日から２０日まで開催されるIMFと世銀の春季会合に参加。

(2) サレハ経済・持続可能な開発大臣、ンバディ財務大臣、デフビ・モーリタニア中央銀行総裁からなるモーリタニア代表団は、アフリカ連合(AU)のG20常任メンバーとして初参加する。

(3) 代表団は、これらの国際金融機関の高官や会合に出席する多くの国際金融界の著名人とワーキング・セッションを行い、世界経済の見通し、貧困撲滅、経済開発、気候変動、エネルギー転換、人的資本への投資など、世界的に関心の高い問題について話し合う。

## 2. サレハ経済相、アフリカ経済・財務・中央銀行総裁会議の議長を務める

(1) サレハ経済相は、アルベルト・ムチャンガ(Mr. Albert Mushenga) AU経済・産業・貿易委員出席の下、月曜日(15日)にワシントンのAU代表部本部で開催されたAU諸国の経済・財務大臣及び中央銀行総裁会議の議長を務めた。

(2) 会議の目的は、G20が直面する主要な問題、特に持続可能な債務アプローチ、多国間金融機関のガバナンス・システムの改革、開発に資するインフラへの資金供給、公正なエネルギー転換など、アフリカに関連する問題についての立場の調整について議論することであった。

(3) 参加者は、11月にブラジルで開催される次回のG20サミットにおけるアフリカの利益を保証し、サミットまでの数か月間に開催される専門・技術閣僚会合に積極的に参加するための調整作業メカニズムについて合意した。

(4) この会合の後、モーリタニア代表団はAU経済・産業・貿易委員と非公開の会合を開き、AU議長国を務める我が国とAUの関連する委員会との間で、G20サミットに向けた調整メカニズム構築について議論した。

## 3. サレハ経済相、貧困撲滅のための資源動員に関するセッションに参加

(1) 現在ブラジルが議長を務めるG20の2024年春季会合のマージンで開催された、貧困と飢餓と闘うための資金動員に関するハイレベル・セッションで、サレハ経済相が水曜日(17日)に基調講演を行った。

(2) 同大臣はスピーチの中で、モーリタニアが貧困と飢餓と闘うためのプログラムや政策を実施する上で、どのような支援が最適か、また貧困削減のために直面している様々な開発課題について、モーリタニアのビジョンを示した。また、同大臣は、経済成長率と人口成長率の格差に関連する主要な課題及び経済開発を進展させるために両率の間で達成すべき比例関係についても言及した。さらに、社会保護、相乗効果、貧困と脆弱性との闘い、社会的連帯の観点からモーリタニアの経験を紹介した。

#### 4. サレハ経済相、モーリタニアのエネルギーの展望を語る

(1) サレハ経済相は、世銀の2024年春季会合セミナー「アフリカのエネルギー：サービスへのアクセスを加速し、生活を改善するために必要なこと」の基調講演に登壇し、モーリタニアがエネルギー分野で持つ大きな機会と可能性について言及した。

(2) 同大臣は、このような状況にもかかわらず、モーリタニアは現在競争力の低さに苦しんでおり、電力コストは中国の7倍であると指摘した。しかし、モーリタニアは、太陽エネルギーや風力エネルギー資源が豊富であり、グリーン水素の製造の可能性もあることから、再生可能エネルギーへの投資など、この開発に不可欠な分野を発展させるための一連の施策を政府が開始したことで、将来が有望であると指摘した。

(3) 同大臣はまた、政府は制度改革にも着手しており、特に電力サービスへのアクセスを改善するため、電力の生産と配電の機能を分離していると付け加えた。さらに、資源の豊富な国と資源の乏しい国との間のエネルギー分野におけるモーリタニアと大陸との経済統合の必要性について述べ、大陸内でこれらの資源を開発し、余剰分を海外に輸出する可能性を提起した。

#### 5. サレハ経済相と米国国際開発庁（USAID）副長官の会談

(1) サレハ経済相は、15日、ワシントンにてムヤングワ（Ms. Monde Muyangwa）米国国際開発庁副長官と会談を行った。

(2) 会談では、経済的・社会的発展のための援助・支援を専門とする同庁との協力が焦点が当てられた。

#### 6. サレハ経済相とミレニアム・チャレンジ・コーポレーション（MCC）CEOの会談

(1) サレハ経済相は、16日、ワシントンでMCCのアルブライト（Ms. Alice Albright）CEOとワーキングセッションを行った。

(2) 会談では、対象国の貧困削減を目的として、米国機関が提供する助成金プログラムを通じてモーリタニアの経済成長を促進する方法に焦点が当てられた。両者はまた、同機関が提供する支援の適格基準である、グッド・ガバナンス、汚職との闘い、人権の尊重、民主主義の観点から、モーリタニアの発展についても検討した。

#### 7. モーリタニア代表団、IMF副専務理事と会談

(1) IMF 2024年春季会合に出席しているモーリタニア代表団は、岡村

健司 IMF 副専務理事とワーキング・セッションを行った。

(2) 同セッションでは、IMFの支援を受けてモーリタニアが採択した経済改革プログラムについて議論が行われ、マクロ経済の安定を維持し、財政・金融政策の枠組みを強化し、持続可能な成長を支援し、貧困を削減することを目的としたものであった。

(3) 同セッションには、サーレハ経済・持続可能な開発大臣、ンバディ財務大臣、デフビ中央銀行総裁、駐米モーリタニア大使、大統領府・首相府顧問、国家監察官が出席した。

#### 8. サーレハ経済相、世銀と3つの融資協定に調印

(1) 18日、ワシントンにて、サーレハ経済相とディアガナ (Mr. Ousmane Diagana) 世銀副総裁により、保健システム拡張支援プロジェクトの資金調達のため、2つの無償資金協力と約20億6,100万MRU (673万米ドル) の融資を含む合計3つの融資契約が締結された。

(2) 融資に加え、国際開発協会 (IDA) から673万米ドル、国際金融ファシリティ (IFF) から1,500万米ドルの資金が割り当てられた。

(3) IMFと世銀の春季会合のマージンで署名されたこの資金援助は、リプロダクティブ・ヘルス (性と生殖に関する健康) サービスと妊産婦・新生児・小児・思春期の栄養の質とアクセシビリティを向上させ、選ばれた地方におけるこれらのサービスの利用を増加させ、危機や緊急事態が発生した場合、遅滞なく効果的な対応を提供するのに役立つ。

(4) 同大臣はこの機会に、モーリタニアの経済・社会発展に大きな影響を与えるであろうこの重要な支援に対するモーリタニア国民と政府の謝意を世銀に表明した。

#### 9. サーレハ経済相、サウジアラビア開発基金専務理事と会談

(1) サーレハ経済相は、19日、ワシントンにてサウジアラビア開発基金のアル・ムルシッド (Mr. Sultan bin Abdulrahman Al-Murshid) 専務理事と会談した。

(2) 会談の焦点は、モーリタニアにおける同基金による融資プロジェクトのポートフォリオ、特にキファにセネガル川から飲料水を供給するプロジェクト及びヌアクショットのセルマン国王病院の建設など、これらのプロジェクトの効率的な実施を加速させる方法についてであった。

(3) 同会談は、モーリタニアの持続可能な開発を促進するための新たなプロジェクト立ち上げの可能性についても話し合う機会となった。



## 10. モーリタニア代表团、国際金融公社（IFC）副総裁と会談

（1）2024年のIMF・世銀春季会合に参加中のモーリタニア代表团は、20日、IFCアフリカ地域担当副総裁と会合を実施した。

（2）会合では、開発プロセスにおける中小企業を含む民間セクターの役割を強化する方法について話し合われた。また、農業分野の産業育成を目的として、モーリタニアにおけるグリーンエネルギーへの投資問題が検討された。

（3）会合のマージンで、デフビ・モーリタニア中央銀行総裁とIFC副総裁との間で、マイクロファイナンス部門の支援を目的としたパートナーシップ協定が締結された。この協定に基づき、IFCは、ニーズに合った有益な金融商品やサービスを適正な価格で利用できるようにする金融のグローバル化を実現するため、このセクターのプレーヤーの能力を高めるための資金を動員することを約束した。

（4）また、ヌアクショット、ヌアディブとロツソを結ぶ道路、ヌアクショットとブーティルミットを結ぶ道路、エル・アウジ（El Aouj）鉱山プロジェクト、中小企業支援のための銀行枠など、官民パートナーシップ・プロジェクトのポートフォリオについても話し合う機会となった。

（5）会合ではまた、モーリタニア投資促進庁（APIM）がIFCの支援を受けて実施した、投資規約の更新、新戦略の資金調達のために開催される円卓会議への支援動員方法の検討、設立される投資基金などの施策についても話し合われた。

## 11. モーリタニア、IMF会合でグッド・ガバナンス強化の経験を紹介

（1）サーレハ経済相は、19日、春期会合のマージンで、グッドガバナンスの強化で成果を上げた国々の経験を紹介するセッションの一環として開催された、グッドガバナンスに関するセッションに参加した。今年、モーリタニアは、この分野での経験を発表するため、この会議に参加することになった。

（2）セッションでは、モーリタニアの代表が、ガバナンス状況の診断及びIMFの支援を受けて行動計画を策定するためにモーリタニアが講じた措置に焦点を当てたプレゼンテーションを行った。IMFは、早い段階でモーリタニア政府からガバナンスに関する報告書の作成を依頼されており、その結果、かなりの成果が上がっていることが明らかになった。

（3）ガズワニ大統領の指示による強い政治的意志に支えられた、この新しいアプローチを追求するコミットメントも強調され、それは非常に前向きな結果を生んでいる。特に、政府とIMFの合意により採択された行動計画の策定、その実施を確保するためのモーリタニアのコミットメントに関する経済大臣と国家監察官の同会議への参加は高く評価された。

## ●日・モーリタニア外相会談

現地時間4月17日午後4時5分（日本時間17日午後11時5分）から約40分間、G7外務大臣会合に出席するためイタリア・カプリを往訪中の上川陽子外務大臣は、モハメド・サレム・ウルド・メルズーグ・モーリタニア外務・協力・在外モーリタニア人大臣（H. E. Dr. Mohamed Salem Ould MERZOUG, Minister of Foreign Affairs, Cooperation and Mauritaniens Abroad of the Islamic Republic of Mauritania）との間で外相会談を行ったところ、概要は以下のとおり。

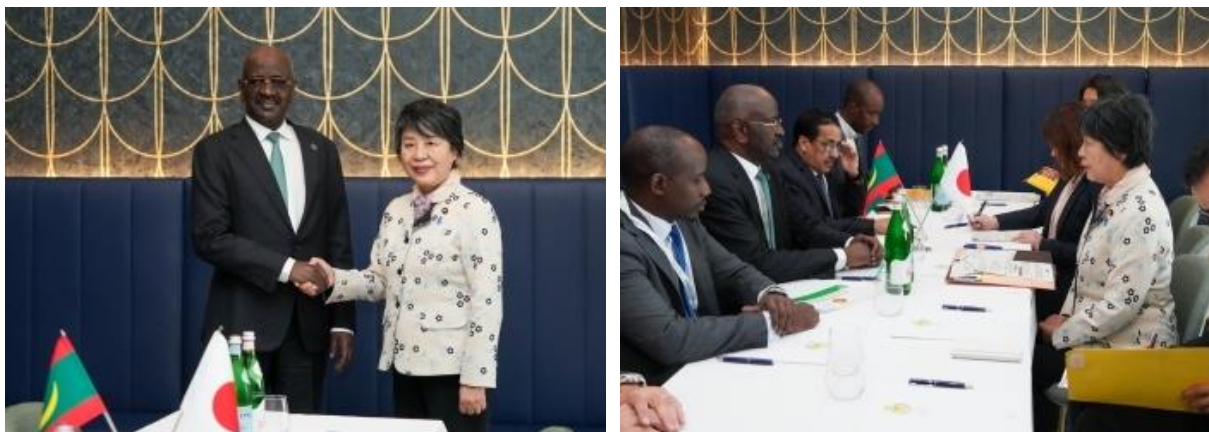
1. 冒頭、上川大臣から、モーリタニアのAU議長国への就任に祝意を述べるとともに、国際社会におけるアフリカの発言力が高まる中、様々な機会にアフリカの声を代表する同国の役割は重要であると述べた。また、不安定な情勢が続いているサヘル地域で民主主義に基づく国家運営を続けるモーリタニアに敬意を表した。続けて、本年8月のアフリカ開発会議（TICAD）閣僚会合で日本と共同議長を務めるモーリタニアと連携し、アフリカの内発的変革を後押しするとともに、法の支配、グローバル・ガバナンス強化に向けアフリカ諸国と連携を強化したい旨述べた。また、TICAD閣僚会合の機会も生かし、両国関係の一層の発展、アフリカと様々な分野での共創関係強化を通じたグローバルな課題解決への貢献への期待を述べた。

2. これに対し、メルズーグ大臣から、AU議長国として、アジェンダ2063の実施、グローバル・ガバナンス改革に向けた日本との連携への期待を述べるとともに、TICAD閣僚会合の共同議長国として、同会合の成功に向け、日本と協力していきたい旨述べた。

3. 上川大臣から、サヘル地域の安定化の鍵を握るモーリタニアの開発・安定を後押しする観点から、農業・漁業の産業基盤強化等への協力を行っている旨述べた。メルズーグ大臣から、漁業分野を始めとするモーリタニアの発展に対する日本の貢献への謝意とともに、経済分野を始めとして二国間関係を一層強化していきたい旨述べた。

4. また、上川大臣から、国際社会の平和と安定、繁栄を実現する上で、日本が推進している「女性・平和・安全保障（WPS）」の一環として、サヘル地域の避難民へのUN Women等を通じた支援に言及しつつ、モーリタニア及びAUとの連携を実践したい旨述べた。

5. その他、両大臣は、安保理改革を含む国連の機能強化に関する緊密な連携を含む国際場裡での協力や地域情勢等について意見交換を行った。



●モーリタニア外政（ファイ・セネガル新大統領による当地訪問に先立つ解説記事）

（4月18日付、当地政府系メディアAMI）

1. 当地政府系メディアAMIによるファイ大統領歓迎コメント

（1）本日（18日）のファイ・セネガル共和国大統領のモーリタニアへの訪問は、モーリタニアとセネガルの間の兄弟愛、友好、連帯、協力の長い軌跡の一部であり、血縁、精神性、地理、文化、歴史、国境、そしてユニークで特別な関係によって物質的に結ばれた2つの国民の運命共同体によって不可分に織り成された何世紀にもわたる絆の連続的な表現である。

（2）ガズワニ大統領がセネガルの大統領就任式に出席したこと、ファイ大統領が初の国外訪問としてモーリタニアを選択したことは、セネガル川の両岸に新たな架け橋を築き、二国間協力の機会と展望を継続的にモデル化し、その都度、変化と歩調を合わせ、新たな地平を切り拓いていこうとする、両首脳の強い意思の証拠である。

（3）それは、モーリタニアとセネガルが、この地域の繁栄の原動力とするために、二国間協力を強固なものにすることが、今日避けられない急務であることを考慮に入れた革新的な開発軌道を通じて、より良い未来を築くというものである。

（4）モーリタニアとセネガルは、同じ価値観を共有し、平和、民主主義、連帯の美德を信じるサブリージョンの主要なプレーヤーとして、自分たちに課せられた大きな責任をこれまで以上に自覚している。両国民の共通の理想に奉仕

するため、協力の中心がダイナミックで効果的であり続けるよう、多くの課題に立ち向かうために、両国の関係に新たな教義的基盤を構築する上で、両国固有の強みを十分かつ知的に活用できることは間違いない。

(5) 大規模な代表団を率いてのセネガル国家元首の今回の訪問は、漁業、エネルギー、貿易など多種多様な分野で両国間に築かれたダイナミックなパートナーシップを拡大する新たな原動力となり、また、今日の主要な問題や激動期を迎えているアフリカの懸念事項についての協議と交流という定評ある伝統を永續させる新たな段階を示すものである。現在、モーリタニアがアフリカ連合(AU)の輪番議長国を務めているため、両首脳にとってこの問題はより重要な議題となるだろう。

(6) 今回の訪問で、両首脳は共通のコミットメント、見解の共有を活かし、絶えず変化する環境における進化と新たなニーズに対応するため、協力の手段を再検討する。

(7) しかし、すべてのモーリタニア人は、セネガル大統領の最初の外遊先として自国が選ばれたことに反映されているこの友情と尊敬に敏感である。

モーリタニアにいらっしゃるセネガルからのお客様を歓迎いたします！

## 2. 当地政府系メディアAMIによる解説記事

(1) ファイ大統領が、4月18日にモーリタニアを友好・実務訪問する。3月24日、54.28%の得票率でセネガル国民によって運命の大統領に選ばれた人物によるモーリタニアへの初の外国訪問は、象徴的な意味にあふれている。

(2) まず第一に、両国を隔て、両国の国際的な主権を確立している河川が自然のフロンティアであり、河川の両岸が共通の運命を共有していることを認識するにつれ、サブリージョン(OMVS、CILSS)、地域(AU、OIC)、国際(国連)組織の中で両国が維持している貴重な歴史的、文化的、人的、経済的関係を決して損なうものではないことが確認された。

(3) ファイ大統領が、セネガル新大統領就任式に出席した一流の来賓の先頭にいたガズワニ大統領を訪問することが発表されて以来、注目の的となっているのは明らかだ。このような非常に象徴的なイベントを支配する地政学的、経済的な親和性にもよるが、なぜ他のアフリカ、ヨーロッパ、アジアの首都ではなく、ヌアクショットなのかという疑問が生じる。

(4) 両国はセネガル川開発機構(OMVS)のメンバーであり、半世紀以上前(1972年3月11日)にモーリタニア、マリ、セネガルの3か国がヌアクショットに設立したOMVSは、南南協力の成功例としてよく引き合いに出される。今日、モーリタニアとセネガルの両国にとって非常に有望なモーリタ

ニア・セネガル国境沖海底ガス田開発（G T A）プロジェクトは、サブリージョン、さらにはアフリカの経済統合のために共有の天然資源を活用するという前向きな好例である。

（５） 2015年に両国の海上国境で発見されたG T Aプロジェクトからのガス開発が間近に迫っていることで、両国はすでに、モーリタニアでは両国の開発プログラムの資金調達に貢献する貴重な財源を持つ、非常に羨望の的である石油・ガス産出国の仲間入りを果たしている。南南協力に関しては、モーリタニアとセネガルは、時折前触れもなく発生する危険（新型コロナ）や、風土病のような危機（アフリカ債務問題）のために、必ずしも好ましいとは言えない経済情勢にもかかわらず、良い模範を示している。

（６） この良好な協力関係は水耕農業分野にも存在し、前述のようにギニアが2006年から加盟しているOMVSが設立された。アフリカ開発銀行（AfDB）らが8,800万ユーロを融資し、川に橋を架けることで強化される。このインフラによって、これまでドイツがモーリタニアに寄贈した2隻のフェリーによって行われていた両国間の物資や人の移動が、間もなく容易になるはずだ。この橋（セネガル北西部とモーリタニア南西部の国境に建設中の橋）は、ヨーロッパとサハラ以南のアフリカを結ぶサハラ砂漠横断鉄道のミッシングリンクとして、多くの人々が注目している。

（７） ガス田に関しては、BP社が、2024年後半にG T Aからのガス生産を開始すると発表した。当初2021年に予定されていたG T Aからの実際の生産は、新型コロナやその他の不可抗力のために2年遅れていた。

（８） 沿岸海盆のブロック8で2015年4月27日に発見されたG T Aは、さまざまな意味で神の贈り物と言える。この10年間に発見された希少な地質学的宝石のひとつである。その潜在埋蔵量は100TCFであり、莫大なものだ。年間1,000万トンを生産するために、約240億米ドルの開発予算で3段階に分けて順次開発される。操業20年間の推定収益は900億ドル規模になる。

（９） OMVSについては、「1つの川、4つの国」という組織のモットーが、あらゆるもの（水、電力、河川航行、ダムなど）を共有し、コンセンサスによって意思決定を行うこれらの国が示す統合への願望を表現しており、これほど心強い枠組みはない。というのも、長い時間をかけて締結された条約により、4か国の住民に経済的な貢献をするこのサブリージョン組織の運営は、もはや実証する必要がなくなったからである。

（10） 2000年に西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）を脱退したモーリタニアは、準加盟国としての特権的地位を維持しており、貿易や関税に関して加盟国に与えられる特権のほとんどすべてを享受している。

(11) モーリタニア人とセネガル人は、近接性、運命共同体、歴史、文化、地理的条件、そして忘れてはならない重要な事実として、ガズワニ・モーリタニア大統領が現在AUの輪番議長であることを考慮し、ファイ大統領の初外遊がモーリタニアであったことを大いに評価するであろう。

●モーリタニア外政（ファイ・セネガル大統領の当地訪問）

（4月18日付、当地政府系メディアAMI）

1 18日、ガズワニ大統領兼AU議長は、ヌアクショットの大統領宮において、ファイ・セネガル大統領と、兄弟国である両国の二国間協力関係及び様々な分野における関係の発展・強化の方法について会談した。

2 その後、セネガル代表团に加え、大統領府のジャイ大統領官房担当大臣、ボヤ法務大臣、ラム漁業・海洋経済大臣、モハメド設備・運輸大臣、アフメドゥ駐セネガル大使、アップ大統領府顧問、バヒニ大統領府企画官、トラオレ大統領府企画官及びデンヤ炭化水素総局長が会談に臨んだ。

3 ファイ・セネガル大統領は、大統領就任後初めての外遊となる友好・実務訪問のため、我が国を訪問中である。

●モーリタニア外政（モーリタニア市民がマリ領内で受けている暴挙に関するマリへの抗議）

（4月20日付、当地政府系メディアAMI）

1. 2024年4月19日（金）、外務・協力・在外モーリタニア人省は、ヌアクショットに駐在するマリ共和国大使を召喚し、平和的なモーリタニア市民がマリ領内で繰り返し受けている暴挙に対する抗議を伝えた。

2. このような事態が発生するたびに、我が国は、モーリタニアとマリの国民間の善隣関係、協力及び両国の共通の利益を守る必要性という原則に基づき、常に警告を発しているにもかかわらず、このような全く容認できない状況が続いている。

3. 同省はマリ大使に対し、モーリタニア政府がこの痛ましい出来事についてマリ政府からの説明を待っていることを伝えた。

4. このような状況の中、昨日、国防大臣がこの問題に関する明確なメッセージを携えてバマコへ赴いた。